

 水性ケンエース™多機能タイプの環境配慮形水性つや消し塗料
内装・外装の各部位に塗装可能です

防火材料認定番号	品目名
NM-8585	塗料塗装/不燃材料
QM-9816	塗料塗装/準不燃材料
RM-9364	塗料塗装/難燃材料

ホルムアルデヒド 放 散 等 級	F☆☆☆☆
---------------------	-------

■ 特長

① 環境配慮形

水系、非危険物、1液形なので、臭気が少なく、ポットライフがない取り扱いやすい商品です
また低VOC塗料 (TVOC1%以下) です、室内環境に配慮した水性塗料です

③ やに止め性／付着性／耐水性

1液水性反応硬化形なので、密着性にすぐれています
また、※やに止め性、付着性、耐水性などにすぐれています
※やに止めについては裏面の「やに止めレベルの目安」をご参照ください。

② 優れた仕上がり

落ち着いたあるつや消し仕上げで隠ぺい性に優れ、
外部性能と内部の仕上りの両面を兼ね備えた高級品です

④ 防藻・防かび性

藻やかびの発生を抑える効果があり、美観維持に役立ちます
強力防かびタイプ、抗菌タイプもオプション付与が可能です

■ 用途

戸建住宅・マンション・商業施設など、臭気配慮が必要な内・外壁面の新設・改修塗装

※ JIS K 5663 1種 (主として屋外用) の試験に合格する性能を有しておりますが、耐久性が必要な外壁には、外壁専用塗料をご推奨いたします。

■ 適用下地

新設適用下地：モルタル、コンクリート、石膏ボード、ブロック、木部、かき落しモルタル、塩ビクロス面

⑤ 繊維壁、耐火被覆用ケイカル板、ロックウールなどの非常にぜい弱な素材には使用できません

改修適用下地：上記各種素材面

※素材によってはシーラーが必要になります。施工上の要点と注意事項を参照してください。

■ 標準塗装仕様

● 改修塗装仕様 (内・外面)

・やにの付着が認められる場合は、裏面の「やに止めレベルの目安」をご参照ください。

工 程	塗 料 名	塗り回数	使用量 (kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間 (23℃)	希釈剤	希釈率 (%)	塗装方法
下地調整	浮き膜を除去し、その周辺もケレンしてください。 粉化物、よごれ、ごみ、かびなどを除去し、清掃してください。						
上塗	ニッペ 水性ケンエース	2	平滑面 (0.12~0.14) リシン面・軒天 (0.16~0.20)	2時間以上	水道水	2~8%	ウールローラー・はけ エアレススプレー

● 新設塗装仕様 (内・外面)

工 程	塗 料 名	塗り回数	使用量 (kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間 (23℃)	希釈剤	希釈率 (%)	塗装方法
下地調整	エフロレッセンス、レイタンスなどの粉化物、よごれ、油分などを除去してください。 吸い込みの著しい下地やセメント系素地などの場合は、シーラーが必要となります。その場合は上塗りの前に使用してください。						
上塗	ニッペ 水性ケンエース	2	0.12~0.14	2時間以上	水道水	2~8%	ウールローラー・はけ エアレススプレー

注1) 上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。

塗料の塗り重ね乾燥時間をまもってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります。特に旧塗膜がリシン面などの粗面の場合、塗料が大幅に増えますので試験塗装などして確かめてください)

注2) かび発生面に塗装する場合は、必ず次の処理を行って塗装してください。

① 5%次亜塩素酸ソーダ水で殺菌処理してください。

② 処理剤塗付後は必ず水洗いをし、十分に乾燥させてください。

注3) 塗料を厚く付けすぎると、割れが発生する場合があります。必ず使用量をおまもりください。

注4) 弾性塗膜の塗り替えには使用しないでください。

注5) カタログに記載されている内容は一般的な環境下での施工を想定して記載されております。

特別な環境が想定される施工現場・部位に塗装される場合は、事前に必ず当社営業所までご相談いただきますようお願いいたします。

ニッペ 水性ケンエース®

■ 塗装基準

塗装方法	はけ・ウールローラー・エアレススプレー塗り
希釈率	2～8%
使用量	0.12～0.14kg/m ² /回
1缶あたりの塗装面積	57～67m ² /2回/16kg 14～16m ² /2回/4kg

・塗付量は、0.10kg/m²/回です。
・使用量：被塗装面単位面積あたりの塗装材料（希釈する前）の使用質量
・塗付量：被塗装面単位面積あたりの塗装材料（希釈する前）の付着質量

■ 塗り重ね乾燥時間

	5～10℃	23℃	30℃
塗り重ね乾燥	5時間以上	2時間以上	1時間以上


・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

■ 容量・荷姿

塗料名	系統	容量	色相	つや
ニッペ 水性ケンエース	水性反応硬化形 エマルジョン塗料	16kg 4kg	各色 (原色あり)	つや消し

■ やに止めレベルの目安

水性塗料のため、あらゆる条件でやにが止められる訳ではありません。以下の色相を目安に注意して施工してください。

	ニッペ水性ケンエースで止まるやには左の色相が目安です。ただし、施工条件（温度、下地の状態）などにより止まらない場合がありますので予めご了承願います。左の色相見本より著しいやにが付着している場合は、水性シミ止めシーラーⅡを塗装するか、しっかり洗浄をしてやにを除去してから施工してください。
日本塗料工業会 (25-90D) 色相見本	

■ 施工上の要点と注意事項（詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにてご確認ください）

- 絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水溶成分が表面に溶出し、粘着物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、やむを得ず塗装する場合は、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
- 蓄熱されやすい建材（軽量モルタル、ALC、緊密サイディング、発泡ウレタン使用建材など）を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が膨れていることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なること、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じることがありますので、最寄の営業所などにご相談ください。
- 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- 防藻・防カビ・抗菌効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および粉砕処理してから塗装してください。
- 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風の無い場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気分を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。
- 色相によっては降雨、結露によってぬれ色になる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。
- 乾燥後の塗面に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。
- スプレーノズルの先端は、ときどき水洗いをしてください。作業効率の低下および塗りむらの原因になります。
- 乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じることがありますが、時間とともになくなります。
- 反応硬化タイプの塗料のため、使用後のはけなどはできるだけ早く水で洗浄してください。固まった場合は、すみやかにラック・カーンナーで洗浄してください。
- 動物のはけは、はけが固まったりダマになりやすいので、できるだけナイロンはけをご使用ください。
- JIS K 5663 1種（主として屋外用）の試験に合格する性能を有しておりますが、耐久性が必要な外壁には、外壁専用塗料をご推奨いたします。
- 塗膜に割れが生じるおそれがあるため、軟らかい塗膜の上への塗装は避けてください。
- 本品は必ず2回塗りをしてください。1回塗りと2回塗りは仕上がり感が異なります。
- 汚染除去性は、乾燥条件、使用量、塗り回数などに塗り若干差がでる場合があります。
- つや有り仕上げを塗り替える場合、種類によっては適性がない場合がありますので、試し塗りをしてから本施工してください。
- 繊維壁、耐火被覆用けい酸カルシウム板、ロックウールなどの非常に弱い素材には塗装できません。
- 吸音板塗る貯蔵用顔料分塗材（シールマットⅡなど）の塗り替えには使用できません。
- 氷点下で貯蔵すると凍ります。凍らないうように5℃以上で貯蔵、保管してください。
- 旧塗膜に発生した藻・カビは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこなうおそれがあります。
- 風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペファインパーフェクトシーラー、ニッペファイン浸透シーラーをご使用ください。なお、使用量は濡れ感が出るまでを目安とし、素地への吸い込み箇所がある場合はその部分を増し塗りしてください。
- やにが著しく付着している場合は、ウエスなどでやにを水拭きして除去し被塗装面を十分に乾燥させてから塗装してください。希釈を少なくし、1回目の塗装を十分乾燥（目安23℃、6時間）させてから2回目の塗装をするなどでやに止め性が向上します。シミ、あく面は止まりにくい場合がありますので、ウエスなどで水拭きを行い、被塗装面を十分乾燥させてから塗装してください。
- 下地にタバコのやに汚れが著しい場合は、下塗り材として水性シミ止めシーラーⅡを塗装してください。
- タイル面の洗浄に使用する薬剤が塗装面に付着すると、変色や早期劣化などを生じることがありますので、この様な場合には薬剤が付着しない様に塗膜面の養生を行ってください。
- 塩化ビニールクロスのはがれ、めくれ、浮きなどは接着剤で貼り付け、ローラーで圧着したり、類似クロスで面合わせをするなどあらかじめ補修してください。またクロスの接着力が低下している場合、塗装することでクロスが浮き上がってくる場合がありますので、クロスの合わせ部などはあらかじめ接着剤などで押さえておくことが安心です。
- 素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下（ケット科学社製CH-2型で測定した場合）、または5%以下（ケット科学社製H1500シリーズ）コンクリートレンジで測定した場合）の条件で塗装してください。
- 材齢の若いコンクリートなどセメント成分が十分に硬化していない場合、エフロレッセンスが発生するおそれがありますので、溶剤系シーラーをご使用ください。
- 新設の押出成形セメント板、GRC板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペファイン浸透シーラーをお使いください。
- 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- 塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
- 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑性移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
- 笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- 薄めすぎは隠れい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- 上塗りに付えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に付えた色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠れない場合があります。事前に試験施工塗り板等でご確認下さい。
- 調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
- 濃彩色や付えた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するよう箇所を使用する場合は、弱溶剤タイプのビュアライドUVプロテクトクリヤーシリーズ（MK/DF/SI）を上塗りに塗装してください。クリヤーのローラー及び刷毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や浮みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
- 濃彩色を塗装する際には、つやむらが目立ちやすくなるおそれがありますので、事前に試し塗りをしてご確認の上、ご使用ください。
- 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
- はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
- ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
- 塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
- 汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
- 布クロス、紙クロスや汚染防止のクロス（シリコン加工され水をかけると著しくはくクロス）には塗装できません。塩ビクロスで可塑性移行が考えられる場合は水性シミ止めシーラーを塗装してください。
- 可塑性が多く含まれる塩ビクロス、塩ビソル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムバックシン、合成皮革などへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようご注意ください。
- 塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
- 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密性してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
- 塗料、塗料容器、塗装具を廃棄する時には、産業廃棄物として処理してください。容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

- 本カタログ掲載商品の詳細な危険有害性情報や使用上の注意事項等については、安全データシート（SDS）をご参照ください。
- 本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は、事前に相談ください。

日本ペイント株式会社

北海道支店 ☎011-370-3101 近畿支店 ☎06-6455-9608
東北支店 ☎022-232-6711 中国支店 ☎082-281-2180
関東支店 ☎03-5479-3614 四国支店 ☎0877-56-2346
北関東信越支店 ☎03-5479-3614 九州支店 ☎092-751-9861
中部支店 ☎052-461-1960

- 本カタログの内容については、予告なしに変更する場合がございますのであらかじめご了承ください。
- 本カタログ中の製品名・会社名は、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社、その他会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
- ©Copyright 2025 NIPPON PAINT Co., Ltd All rights reserved.
- 日本ペイントホームページ <https://www.nipponpaint.co.jp/>

カタログNo.
NP-D132

SS250910T
2025年9月現在